

日本橋の車道と歩道

日本橋は1873年に西洋式の木橋に架け替えられたが、この時に車道と歩道を隔てる欄干が設けられた。錦絵を見ると、中央の車道を馬車や人力車、両側の歩道を歩行者が通っている様子がわかる。



日本橋から和洋折衷建築を望む「東京日本橋ハウス之遠景」永島孟斎 明治時代前半 900061

日本橋の袂から東南方向を描いた風景。右奥に見えるのは5階建て和洋折衷建築の三井組ハウスである。政府機関・民間を問わず、日本橋川周辺にはこうした西洋の建築要素を取り入れた建築が数多く建てられ、川沿いの風景は変化していった。



乗合馬車

江戸時代、馬車は幕府によって走行が禁止されていたが、1869年に東京―横浜間で公共交通機関として「乗合馬車」の営業が開始された。

乗合馬車運賃表（新橋～浅草まで）

新橋発	1人あたり	浅草発	1人あたり
日本橋本町	3銭	浅草橋	2銭
緑橋	3銭5厘	緑橋	2銭5厘
浅草橋	4銭	本町(日本橋)	3銭
広小路(浅草)	5銭	中橋/京橋	4銭
		新橋	5銭

『改正東京案内』(1881年)を元に作成

三井組の政府サポート・紙幣発行と私立銀行の設立



三井組は、江戸時代から日本橋で両替屋を営んでいましたが、明治時代に入ると近代的な銀行の設立を目指します。

当初は政府による貨幣・金融制度の整備のサポートに翻弄されますが、1876年に念願の三井「銀行」を設立しました。

	三井の意図	政府との関係	日本橋関係
17世紀後半	三井高利、江戸にて呉服商を始める		日本橋本町一丁目
1683	駿河町移転、両替屋併設		駿河町(現・室町)
1691		幕府、金銀為替御用を三井に申付ける	
1866(慶応2)	三野村利左衛門 1821- 両替商で三井に出入り → 公金取扱のため三井に入る	10月「御用所」(市中御貸付御用・外国方御金御用取扱)を、駿河町本店に新設	駿河町
1867(慶応3)		「御用所」幕府発行の金札の引替所となる	三井越後屋
1868(明治元)		明治新政府、三井組、小野組らに会計局為替方を申付ける	
1869(明治2)		政府の強い勧奨により、三井組、為替会社設立に参加 為替会社紙幣の発行	元大坂町
1870(明治3)		政府の貯蓄金取扱いを三井組へ命じる	
1871(明治4)	「三井のような富商に新金銀貨と 兌換可能な紙幣を発行させる」	大隈重信・井上馨 「バンク・ラフ・ジャッパン」構想	
旧暦1月		<新貨条例>	
5月		<銀行論争>	
春～秋		大蔵省、三井組に御用為替方を命じる	東京為替会社
6月			
7月	三井組、兌換紙幣発行銀行の設立願い (紙幣雛形も添える)----- 「新貨幣銀行願書」	欧米にない兌換紙幣を発行し、 堅実な営業をする銀行をつくりたい	
	→ 大蔵省、太政官に申請、認可を得る。	新旧貨幣交換業務開始	
10月	銀行設立は一旦取消となったが、三井としての銀行準備のため建物はつくる	伊藤博文の反対により三井組の銀行設立、 紙幣発行取り消し	兜町・三井組構内 紙幣寮直営
12月		海運橋三井組内に兌換証券等の製造所を設置 (~1873年6月)	
		三井組名義による大蔵省兌換証券の発行	
		古金銀預証券、大阪為換座三井組証券掛が担う	
1872(明治5)	兜町に三井組ハウス竣工	政府新紙幣(明治通宝札)発行準備請負 <国立銀行条例> 9月第一国立銀行への出資・経営を依頼される 第一国立銀行に兜町三井組ハウス譲渡決定	海運橋三井組ハウス
1873(明治6)	第一国立銀行開業 (小野組と共同経営) 紙幣発行	兜町の譲渡金でもっと立派な建物を駿河町に建て、 初志貫徹で三井単独での銀行を開業するぞ!	駿河町
1874(明治7)	駿河町「為替バンク三井組」竣工	小野組破綻後、第一国立銀行の主導権は渋沢栄一へ、 紙幣発行権限を持たない私立銀行設立が可能に	三井銀行
1876(明治9)	私盟会社三井銀行開業		



三井組から三井銀行へ

幻の「三井組銀行」紙幣



銀行設立願書と共に提出した「三井組銀行」紙幣ひな形

「官許正金兌換証券」1871年7月 原資料：(公財)三井文庫蔵

三井組は独自の紙幣を発行する銀行設立願書を、紙幣のひな形と共に政府に提出した。表面の下部に「三井組銀行」の名称が書かれている。

幕府・政府の依頼で三井が発行に関わった紙幣



江戸及関八州通用金札 1867年 509290
幕府の財政補填策として発行された。通用期限を3年とし、その間は原則として兌換を認めず、期限満了時に三井組にて正貨と引き換えることとした。



東京為替会社紙幣 1869年 500404
東京為替会社は三井の他、島田や小野なども経営に携わっていたが、三井組の三野村利左衛門が「総差配司」として実権を握っていたという。



古金銀預り証券 1871年 500380

大阪為換座三井組証券掛が発行を担った預り証。表面には造幣寮（造幣局）の建物が描かれている。江戸幕府の貨幣と引替に発行され、貨幣と同様に通用した。



政府紙幣 大蔵省兌換証券「三井札」

1871年 500371

為換座三井組の名義で発行され、三井札または三井引換札ともよばれた。下部に「為換座三井組」の文字がある。三井組は発行額の2割を運転資金とすることができた。



政府紙幣 新紙幣「明治通宝札」

1872年 500387

ドイツにて印刷され、日本に入ってから検査・押印が行われた。赤字の「明治通宝」の文字入れと印章の押印は、為換座三井組と為替会社の請負であった。1877年からはドイツ製の原版を使用し、国産紙で製造が行われた。



「東京名所図会駿河町三井銀行」歌川国利 明治時代前半 900129



「東京名所図会駿河町三井銀行」三代歌川広重 1879年 900124

「三井銀行」として描かれた日本橋駿河町三井組

場所：日本橋駿河町（現・日本橋室町）竣工：1874年 設計・施工：2代清水喜助

兜町の為換座三井組の建物を第一国立銀行に譲渡した譲渡金で建設された。1874年「為換バンク三井組」として新たにスタートし、1876年に念願の「三井銀行」が誕生した。日本における最初の私立銀行であった。鯨の乗った巨大な和洋折衷の建築は、多くの見物人が訪れ、名所として錦絵に描かれた。

駿河町三井組 1874年竣工（1876年～三井銀行）



『明治大正建築聚覧』1936年より NDL 蔵



日本の「金融ネットワークの中核」日本橋 日本銀行開業へ

政府は、明治10年代に入ると、国立銀行を紙幣を発行しない民間銀行に転換させる一方、金融ネットワークの中核となる日本銀行を設立することにしました。その後、民間銀行と中央銀行からなる金融ネットワークが確立していきました。こうした動きは、日本橋周辺の金融機関を中心に行われました。

	金融ネットワーク関係 および 日本銀行関係	日本橋関係
1872 (明治5)	国立銀行条例	
1873 (明治6)	第一国立銀行開業	兜町
1876 (明治9)	三井銀行開業 国立銀行条例改正 (正貨兌換義務停止など)	駿河町
1877 (明治10)	7月 渋沢栄一等、 折善会 (現全国銀行協会) を設立 12月 国立銀行条例改正 (紙幣発行額の制限など)	多くの国立銀行の本支店が日本橋区に
1878 (明治11)	<東京株式取引所開業> 松方正義大蔵大輔、ヨーロッパの中央銀行制度を視察	兜町
1879 (明治12)	第百五十三国立銀行 (京都) 開業、以後国立銀行の設立は認められず	
1880 (明治13)	8月 折善会解散、 9月 東京銀行集会所 設立 10月 東京銀行集会所、 為替取組所を設置	1882年~兜町 →1885年坂本町新築
1881 (明治14)	松方大蔵卿就任 (明治14年の政変)	
1882 (明治15)	日本銀行開業	北新堀町 (永代橋際)
1884 (明治17)	日本銀行券十円券、11月原版完成 12月 印刷局にて印刷開始	大手町
1885 (明治18)	日本銀行券発行開始	北新堀町 (永代橋際)
1896 (明治29)	日本銀行本店新築移転	本石町

国立銀行

全国に設立され

- ・多くは、順調に業績を伸ばし、**地域経済の振興に貢献**
- ・折善会や第一国立銀行による銀行のネットワーク化も進展

問題 中には貸出が焦げ付き、不良債権を抱える銀行も

政府

解決策 by松方正義大蔵卿

- ①国立銀行を紙幣の発行権限を持たない**私立銀行 (普通銀行)** に転換させる
- ②民間銀行のネットワークの中核として中央銀行**日本銀行** を設立
- ③紙幣の発行を**日本銀行** に集中させることに

日本銀行

設立後

- ・国立銀行との間でコレレス (預金の預け合い) 取引を通じたネットワークを形成
- ・紙幣の一元的な発行を開始

◆ 日本橋周辺に集まった金融機関

- ・1880年銀行同士の協力と親睦を図るため**東京銀行集会所**が日本橋萬町で設立され、1885年に坂本町へ移転した。
- ・銀行集会所周辺には、**多くの国立銀行**が店舗を設けた。
- ・**日本銀行**は日本橋川河口近くに開業し、後に省庁と銀行街の間、日本橋本石町に新築移転することとなる。



蛸殻町の第五国立銀行

左には中外商行会社 (米の先物取引所) も描かれている。

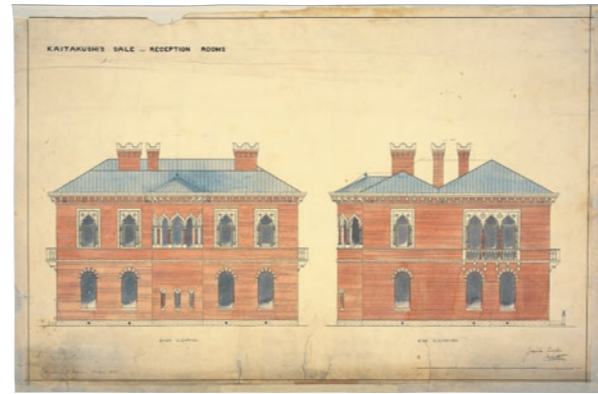


明治期日本橋区にあった主な国立銀行

「東京市日本橋区全国(部分)」東京都立中央図書館 蔵

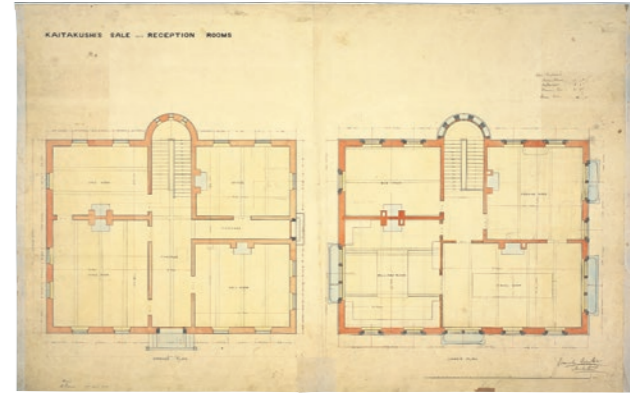
にちぎん誕生

コンドルによって永代橋際に建設された開拓使の建物が、開拓使の廃止後、1882年から1896年までの約14年間、日本銀行本店として使用されました。



開業当初の日本銀行の建物：開拓使物産売捌所 立面図

1878年 ジョサイア・コンドル 日本銀行アーカイブ 蔵
開拓使物産売捌所は、建築家・コンドルにより、ヴェネツィアン・ゴシック様式で、隅田川の永代橋際、日本橋川の河口近くに1881年に竣工した。1882年2月に開拓使は廃止となり、同年10月より日本銀行初代本店として1896年まで使われた。



開業当初の日本銀行の建物：開拓使物産売捌所 平面図

1878年 ジョサイア・コンドル、辰野金吾 日本銀行アーカイブ 蔵
工部大学校で教鞭をとっていたイギリス人建築家コンドル (上部写真) が、同校の教え子であった辰野金吾らに実習で描かせた図面のうちの1枚。

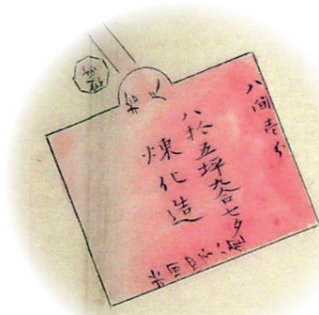
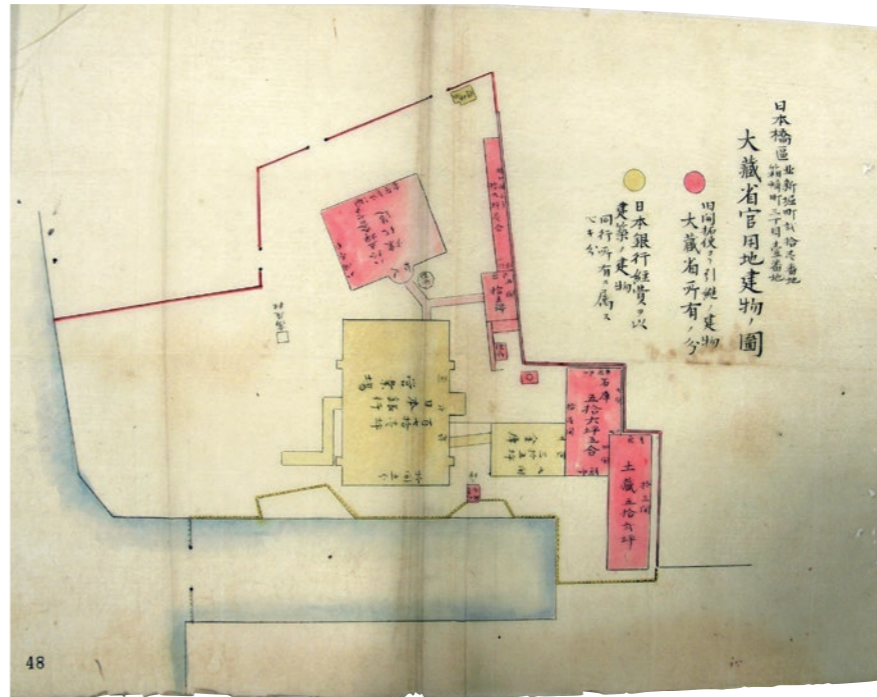


建築家 ジョサイア・コンドル Josiah Conder

1852-1920年
1877年に明治政府の招聘に応じて来日し (当時25歳)、工部大学校の教師となった。辰野金吾など、多くの日本人建築家を育てた。

開拓使物産売捌所とは

北海道の特産品を陳列・販売する開拓使の東京出張所施設。1882年に開拓使は廃止されたため、開拓使の建物として利用されたのは僅かな期間であった。



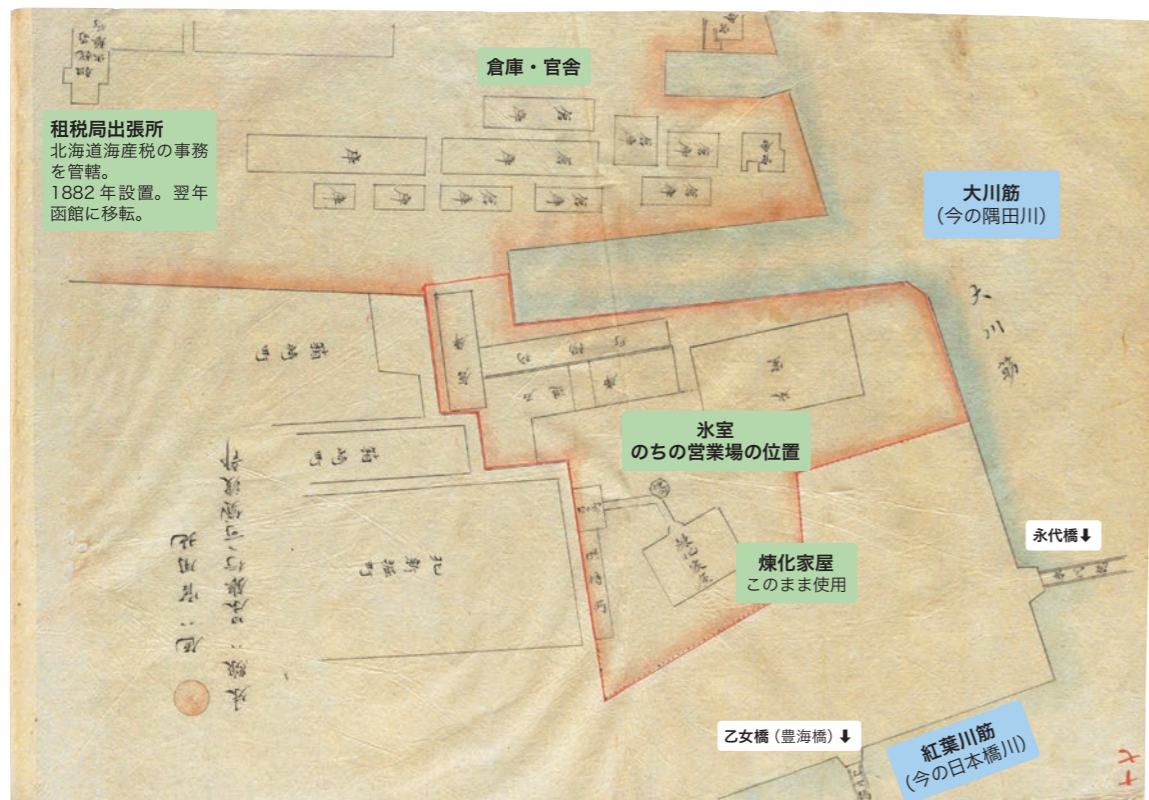
煉瓦造り建築にあたる部分

初代日本銀行となった敷地の図面

「大蔵省管用地建物ノ図」 日本銀行アーカイブ 蔵
開拓使の建物を引継いだ部分は赤く塗られ (大蔵省所有)、日本銀行の経費によって建築された部分は黄色く塗られている。



日本銀行となった敷地とその周辺



淡く赤で縁取られた場所は官用地で、日本銀行へ貸し渡す場所は朱線で囲まれている。『日本銀行所要ノ地所建物貸渡ノ件』 国立公文書館 蔵

水辺で開業した日本銀行

最初の日本銀行券「大黒札」

1885年 500779

日本銀行は開業後すぐには銀行券を発行せず、
①政府とともに過剰となっていた政府紙幣や
国立銀行紙幣の回収事務を行い、
②民間銀行とのネットワークづくりを進めた。
最初の日本銀行券は開業から3年後に発行された。



永代橋際日本銀行の雪

井上安治 1880年代 900055

雪景色の中に当時まだ珍しかった煉瓦造り建築を描いたもの。版画家井上安治（1864-1889年）による東京名所シリーズの1点。



右上部分

永代橋日本銀行
霊岸島より深川へ渡る橋にて
元禄十一年始めて是を架る永代島二
わたるゆへに名とすとて長サ百余間中
六間馬車人道をわける橋の
西際日本銀行有社長八元大蔵
小輔たりし吉原君也 従前八開拓
使にて建之也 此所八諸縣下へ廻
船の港にして東南八蒼海にして
房総の翠巒斜に芙蓉の白峯
八西に峙ち東京一の風景なり

永代橋袂の開業当初の日本銀行

『東京土産名勝図会 永代橋日本銀行』三代歌川広重 1884年 901597

永代橋を行き交う人々と、煉瓦造りの日本銀行本店が描かれている。右上に初代日本銀行総裁が吉原重俊であったことや、元は開拓使の建物であったことが記されている。



中央に日本銀行初代本店（1882年開業）と右手に永代橋

『東京真画名所図解 永代遠景』井上安治 1880年代 901646

佃島から永代橋をのぞむ図。中央の茶色い建物が北新堀町（箱崎町）の日本銀行。右側の白い建物は日本銀行による増築棟。



日本銀行本店 大蔵省から引き継いだ煉瓦造（左）と日本銀行で新築した建物（右）

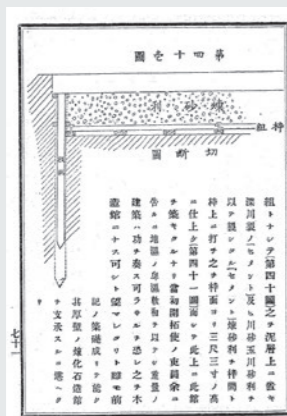
原資料：日本銀行アーカイブ 蔵

錦絵「永代遠景」の、中央赤茶色と白色の建物にあたる写真。

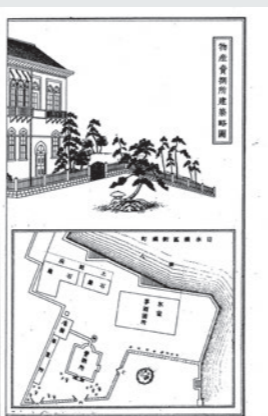
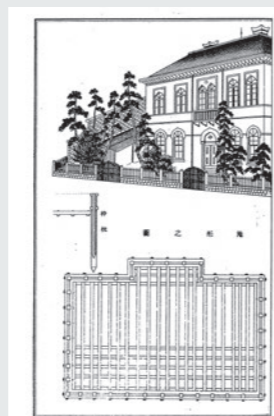
水辺の建築にあたっての工夫 — 開拓使物産売捌所の基礎 —

コンドルの著作『造家必携』に、開拓使物産売捌所（後の初代日本銀行本店）の基礎についての説明がある。川沿いにあり地質が不安定な泥土であったため、格子状に木材で枠組みを敷き、深川セメント[※]製のセメントと、砂利で埋め、地盤を強固なものにしたとある。

※官営工場。のちに民間に払い下げられ、浅野セメントとなる。



『造家必携』1886年より NDL 蔵



『開拓使事業報告 第2編』1885年より NDL 蔵



水辺の日本銀行と文明開化の永代橋

「東京名所永代橋真景」1887年 楊高延一 慶應義塾図書館蔵

中央に隅田川にかかる永代橋、左端の煉瓦造りの建物は日本銀行で、イスラム建築風の窓がみえる。その右側の赤い建物は高尾社。永代橋の上では人力車や洋装と装の人々が、水上では蒸気船や大型の帆船、和船が行き交っている。右側には隅田川の河口部にある佃島、対岸の洲崎遊郭、その左側には浅野セメントの煙突がみえる。



イスラム建築風の窓



原資料：日本銀行アーカイブ蔵

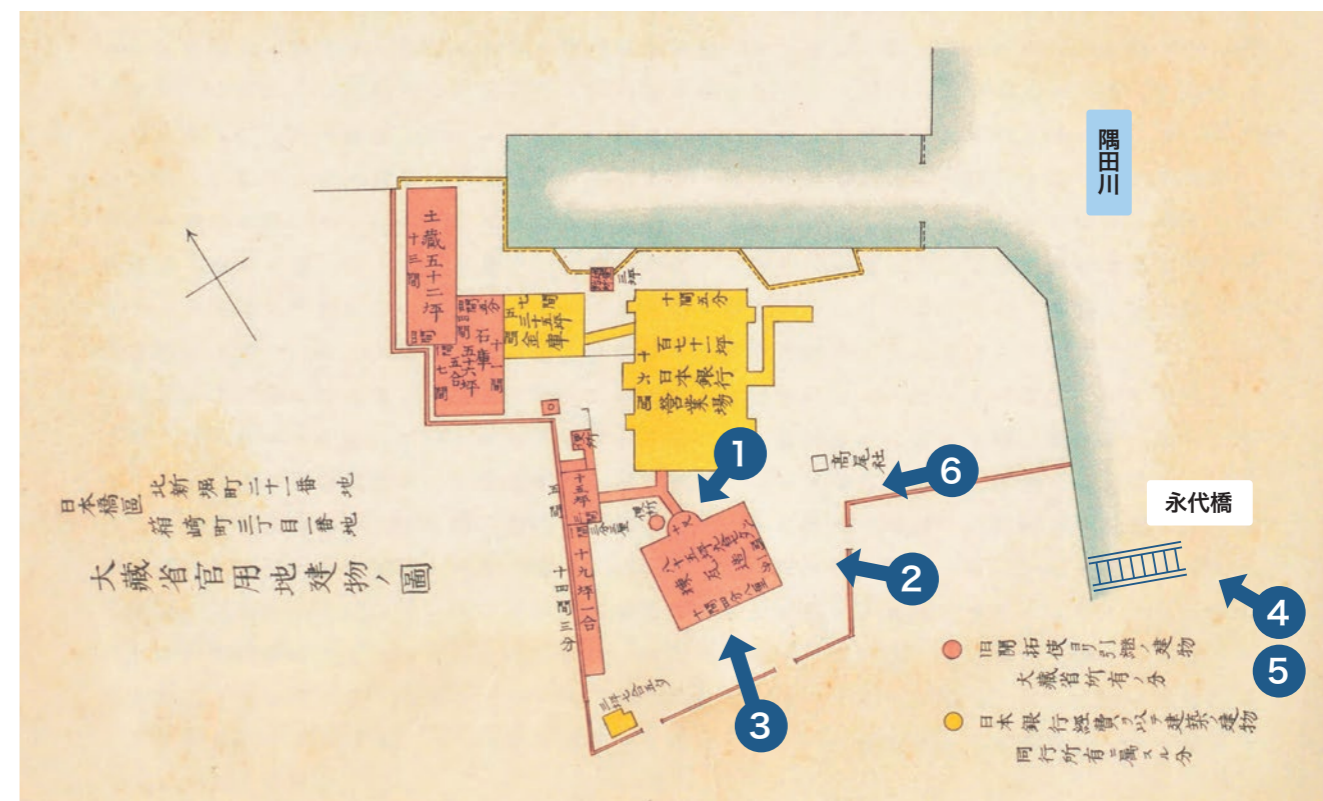
家屋のような形の門柱



原資料：日本銀行アーカイブ蔵



日本銀行創業の地の風景



『日本銀行沿革史 第一巻』1913年より NDL蔵

1



日本銀行アーカイブ蔵
建物裏側からの写真

2



隅田川方面からみた錦絵

3



日本銀行アーカイブ蔵
建物正面からの写真

4



日本銀行アーカイブ蔵
永代橋の奥に日本銀行となる
開拓使の建物がみえる。

5



井上安治「東京名所帖」NDL蔵
佃島方面からみた錦絵

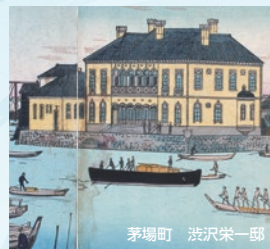
6



日本銀行アーカイブ蔵
隅田川方面からの写真



日本橋川 2棟のヴェネツィア風建築と水の都



日本銀行はコンドルによるヴェネツィア風建築で1882年に開業しましたが、6年後の1888年、日本橋川に面して、同じヴェネツィア風の渋沢栄一邸が竣工しました。

設計者はコンドルの弟子で、後に日本銀行本店を新築した辰野金吾でした。

東京の物流を担った日本橋川周辺には、江戸時代以来の土蔵と共に2棟のヴェネツィア風建築、紙幣寮など数々の壮大な近代建築が建ち並んだ。
近代の金融・商業都市は水の都ヴェネツィアへの憧憬を呼んだという。

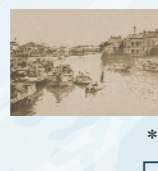


箱崎町 初代日本銀行本店
日本銀行アーカイブ 蔵

紙幣寮
1876年 ウォートルス他
煉瓦造



渋沢栄一邸
1888年 辰野金吾
ヴェネツィアン・ゴシック様式



東京株式取引所
1881年頃



米商会所 (中外商行会社)
1874年



三井銀行 (三井組)
1874年 二代清水喜助
三層和洋折衷建築



第一国立銀行 (第一銀行)
1872年 二代清水喜助 (当初三井組)
五層和洋折衷建築
1902年 辰野金吾



銀行集会所
1885年 辰野金吾
パラーディオ様式



日本銀行本店
(旧開拓使物産売捌所)
1881年 ジョサイア・コンドル
辰野金吾は実習で関与
ヴェネツィアン・ゴシック様式

年代は竣工年、人名は設計者
* NDL蔵

渋沢栄一邸と水の都構想



渋沢栄一邸と水辺の風景

「江戸橋ヨリ鑑橋遠景 (View of Yedobashi and Yoroibashi)」井上安治 1888年 900115

中央の洋風建築は渋沢栄一邸。左には鉄骨トラスの鑑橋が描かれ、右側の眼鏡橋は江戸橋、右側の旗のある高い建物は第一国立銀行である。洋風の新しい建物が建つなか、左には土蔵が建ち並び、積み荷を運ぶ船が行き交う日本橋川の風景が描かれている。

日本橋川 渋沢栄一邸 (右端) とトラス式の鑑橋 (中央奥)



『東京風景』1911年より NDL蔵

日本橋川の舟と渋沢栄一邸



『明治大正建築聚覧』1936年より NDL蔵

日本橋川 鑑橋袂 兜町・東京株式取引所



『東京風景』1911年より NDL蔵



『東京風景』1911年より NDL蔵